

簡易懸濁法における 崩壊懸濁試験及び通過性試験

1. 試験目的

ビューシー配合顆粒について、簡易懸濁法での適用が可能かどうかを検討する為、崩壊懸濁試験及び通過性試験を実施したので報告する。

2. 試験材料

ビューシー配合顆粒 Lot.205605 大洋薬品工業株式会社

3. 測定方法

崩壊懸濁試験: 55℃の温湯20mLを入れたカップに成人最大1回投与量(3g)の顆粒を入れて10分間自然放置した後、スパーテルで右20回、左20回、水10回と円を描くように攪拌し、懸濁状況を確認した。

通過性試験: 崩壊懸濁法で得られた懸濁液をディスペンサーに吸い取り、経管栄養チューブの注入端より2～3mL/秒の速度で注入し、チューブのサイズ、8、12、14、16、18フレンチ(以下Fr. とする)による通過性を観察した。

4. 試験結果

崩壊懸濁試験の結果を表1に、通過性試験の結果を表2に示す。ビューシー配合顆粒は、10分間の自然放置で温湯に懸濁し、8Fr.のチューブを通過した。

表1 ビューシー配合顆粒の崩壊懸濁試験結果

品目名	崩壊・懸濁状況
ビューシー配合顆粒	10分以内に懸濁した。

表2 ビューシー配合顆粒の通過性試験結果

品目名	最小通過サイズ
ビューシー配合顆粒	8Fr.チューブを通過した。

5. 結論

ビューシー配合顆粒は温湯に対して懸濁し、最小サイズのチューブを通過したため、簡易懸濁法を適用可能と考えられる。